

## 第3回 花火大会のあり方を考える会

### 会議録

【日 時】 令和5年12月19日（火）15:30～17:00

【場 所】 福知山市防災センター 防災研修室

【出席者】 （委員） 9名（別紙参照）

（事務局） 産業政策部 大西理事、西畑部長、山田次長

産業観光課 大江課長、森田担当課長、田中係長

（関係機関） 国土交通省近畿整備局福知山河川国道事務所、京都府、  
福知山警察署、福知山消防署

#### 1 開会

#### 2 開会挨拶

会 長： 第1回目、第2回目と会議を進めてまいり、3回目はいよいよ確信の部分について議論していくことになると思われるため、ぜひ皆さんの忌憚のないご意見をお願いしたい。

#### 3 協議事項

##### (1) 説明

ア 第1回・2回花火大会のあり方を考える会まとめ

第1回花火大会のあり方を考える会（令和5年9月19日）

・ホームページ上で議事録を公開

第2回花火大会のあり方を考える会（令和5年11月30日）※非公開で開催

・アンケート・意見募集・市民公募委員・関係者ヒアリングの現状報告

・由良川河川敷の現場視察

・関係者ヒアリング（事故後に花火の打ち揚げを行った3団体）

イ 市民アンケート【配布資料1】

ウ 市ホームページ等での意見募集【配布資料2】

エ 関係者ヒアリング【配布資料3】

委 員：アンケートは市のホームページにいつ公開されるのか。

事務局：会議が終わり次第速やかに市のホームページに公開する。その後、追って議事

録を公開する予定。

委員：アンケートのネットワーク分析や対応分析について、見方や特徴を説明いただきたい。

事務局：分析いただいた公立大学に確認し、後日、委員の皆様にフィードバックする。

会長：賛成が非常に多いが、「どちらかといえば反対」「反対」という方もおられ、その方々の選択肢では「事故被害者への配慮」が一番多い。

問5-2では考える会に対し、被害者遺族や市民、全ての方から意見を聞き取って開催していきたいと述べられており、考える会としてもそういったことを考慮して進めていきたいと考える。

委員：アンケートはかなり回収率が良く、花火に関心をお持ちの方がたくさんおられた。その中で半分以上は自由意見も書いてもらっており参考になる。

観覧方法について、「会場で観覧する」「会場近くで観覧する」「自宅で観覧する」にあまり差が無く、安全対策等を警戒されて混雑する場所には行きたくないという意見が多くあった印象。

委員：アンケートを見れば見るほど難しいと感じた。考える会そのものがどのように考えていくべきか。賛成は多いが、反対意見も無視できない。

委員：考える会で議論することについては、市民の賛同を得られたと思う。

副会長：被害者への配慮は、具体的に何を考えたらいいいのか非常に難しい。委員の方々は配慮について、どのように捉えられているかお聞きしたい。

委員：割合は賛成が多いが、ひとつひとつにコメントがしっかり書かれており、賛成の方も反対の方もそれぞれに思いをお持ちと感じた。だからこそ、考える会への期待やどのように見られているのか、議論の場を本当に大切にしないといけなと改めて感じた。「どんな対策が必要か」に対して、「露店対策」に次いで「責任体制の確保」や「雑踏対策」の割合が高い。プロではない市民が持つイメージで、本当に必要な対策とは一致しないかもしれない。

委員：「賛成」「必要な対策があれば賛成」で90%近い比率は思った以上に多く、これだけ賛成が多いことは一つの事実として捉えなければいけないように思う。

## (2) 意見交換

### ア 花火大会のあり方を議論することについて

<①花火大会のあり方を議論することについて理解が得られているかについて>

委員：広小路商店街は、花火大会の時に一番活気があり、花火大会があったから面白い商店街作りをしてきたと昔から言われている。市民アンケートは90%近くが賛成または必要な対策が講じられたうえで開催という結果のため、開催に向けて議論をすべきと捉えている。

委員：市民アンケートからすると、市民の皆様の待望論はかなり強いと読み取れる。

開催に踏み出すのであれば、どのような組織で、どのような安全対策等を講じるかを考えることが一番大切と考える。その部分も含めて市民や委員の皆様との議論が非常に大切と考える。

委員：先ほど副会長が言われた配慮の部分は難しいと考える。話さえないでほしいという声も、配慮に含まれる。ただ話をしないと何も進まないという声が割合で多いのは、アンケートから読み取れる。考える会が立ち上がり、多くの声が集まった以上は、どのような形であれば実施できるか議論する時が来たと考える。

副会長：花火大会のあり方を議論することに理解を得られているか、議論しても良い段階なのかについて、判断基準はあるのか。どちらにすれば良いかを考える際、何か判断基準があり、それに当てはまるかを判断し、理由付けとなり結論が出るように思うが、判断基準は分からない状況。市民意見の割合は確かに大きな要素になるかもしれないが、少数であっても反対意見がある。数の割合だけで判断するのはどうかと。反対意見があっても、議論しても良いと言える何か理由付けが必要と考える。委員の方で何か考えがあればお聞きしたいと思う。

委員：新聞社、商工会議所が長年の間、安全に実施されてきた実績が、ひとつの大きな基準になると思う。

会長：花火大会のあり方を議論することについては、市民の皆様を理解を得られているということで判断して良いと思うが、委員の皆様よろしいか。

委員：会長の意見に同意。

会長：考える会としては、花火大会のあり方を議論することに対して、市民の皆様の概ねの理解が得られていると判断したいと思う。

<② 仮に花火大会が開催されるとした場合、どのような形であるべきかについて>

副会長：花火大会のあり方を議論することについて理解が得られているとしたので、次は開催するかしないかを議論し、開催するとした場合には、無条件ではなくて、当然条件付きだと思うので、それについて議論するという理解でよいか。

委員：開催するかしないかというよりは、開催する場合、どの程度対策が必要なのか福知山市として、しっかり対策しようという動きが生まれることが結果的に様々な意見がある中で、日本全体でもそこまで対策しているところはないぐらいまで対策すると、一つ一つの声が前向きになる、逆に全然できなかつたら、実施しない方がいいという声が増えてくると思う。現状で開催するかしないかを考えることは難しいと思う。

委員：議論するからには、開催するかしないかということをテーマに話をしないと実りある議論ができないと思う。ただ、どれだけ時間かけてするとか、いつ結論を出すということは、慎重に考えながらやっていくべきだとは思う。今回アン

ケートにご協力していただいた方も当然そういうことを期待されてご提出いただいていると思う。

委員：アンケート結果の前提条件が夏季の実施、開催場所は由良川河畔である。開催するかしないかよりも、議論をしていいか？ということに対して、ある意味市民の皆様から信託を得たと考える。今後議論する部分は例えば安全対策、過去開催してきた花火大会を参考にしながら、新たな一步を踏み出していけるよう議論を進めることが考える会での最終的な目標と考える。

委員：開催するかしないかというより、するならこの理由です、しないのならこの理由でしないということを考えていきたい。両方の立場で色々議論していきたいと思う。

委員：皆さんの意見とほとんど同じ。実施するとなれば安全対策然り、専門家の意見がないと、議論は前に進まないと思う。また、実施するため資金も必要で、しっかりとした組織があって初めて実施できると思う。安全対策も大事だが、同時進行で進めていかないと、お金や人員も捻出できない。そういったことも考えながらと議論を進めていくべきと思う。

委員：仮に開催するとした場合、どのような対策が必要かということを考えていく必要があると思う。そのような案もなく、開催するかしないかという議論は難しいと思う。

会長：考える会が、開催するかしないかを決定する機関ではない。考える会が市長から委嘱を受けた時に夏場に開催するという仮定で、本当に可能なのか、色々想定して、皆様の意見を聞くということでこの考える会が始まっている。夏場に開催すると仮定してどういう問題があり、実際に議論を行った結果、開催できないという場合も当然出てくると思う。そういうことも念頭に置いて、例えば考える会としては、安全対策とか、主催組織をどうしていくのか、資金の問題等、様々な検討項目があると思うので第4回の会議以降、議論を深めていきたい。また、事務局から各委員の皆様に変更してヒアリングを行い、考える会として検討すべき対策や項目等の整理を第4回の考える会までに実施していただきたい。それを受けて具体的な検討作業を進めていきたいと思う。委員の皆様、よろしいか。

委員：会長の意見に同意。

委員：個別にヒアリングをしていただくということで、様々な意見が委員の皆様からあると思う。それを第4回の会議で具体的に検討していくと思うが、何かベースになるようなものがあれば検討しやすいと思う。例えば、事務局にヒアリングした内容を基に案を作ってください、それを議論の材料にできればと思うがいかがか。

会長：何かベースとなる案があれば、より議論が深まると思う。委員の皆様そのよう

な進め方でよろしいか。

委員：会長の意見に同意。

会長：第4回の会議では検討のベースとなる案を事務局にお願いしたい。

#### イ 市民公募委員の選考について【配布資料4】

事務局：令和5年10月18日から11月10までの期間に募集を行い、1人から応募があった。

選考結果は、現在選考中である。

選考委員会では3つの意見があった。

①応募者は事故以降の花火打ち揚げの関係者である。

②花火大会の議論をすることについて理解が得られているかを協議する段階にあり、事故以降の花火打ち揚げの関係者を市民委員として委嘱することへの議論が必要。

③第3回花火大会のあり方を考える会で議論し、その結果に応じて選考委員会で審査する。

会長：花火大会のあり方を議論することに対しては、概ね理解が得られていると判断したため、応募者を選考委員会において審査することについて意見を伺いたい。

委員：1人でもメンバーが増え、意見が活発になれば良いので、賛成である。

委員：選考委員会があるので、選考委員会で審査いただければ構わない。

副会長：アンケート結果では、「考える会は開催ありきで動いているのではないか」と意見があった。考える会が中立の立場であることを考えると、応募者は不適當ではないか。

委員：今後どうしていくかがまだ決まっていない段階で、関係者が委員に入られることは、どうかと思う。何もしがらみがない人が委員に入られることが望ましい。

委員：利害関係者は議論に気をつかう場面が出てくるかもしれない。募集期間は終わっているが、再公募して適当な方を採用してはどうか。

委員：完全に利害関係者であれば、考える会の中立性に悪い色が付いてしまうかもしれないが、関係者であれば知識や資料を読み解く力としては重要となるので、利害関係の度合いを選考委員会で確認いただきたい。

委員：時間があれば、再度公募した方が理解を得やすいのではないか。利害関係を委員や市民がどう感じるかが非常に大事である。

委員：おそらくヒアリングした3団体の中の1人ではないかと思うので、考える会に入っていただくことはご遠慮願ひ、ヒアリングという形で色んなことを聞かせていただいたらどうか。

委員：ヒアリングした3団体と、この方には関係はないのか。

事務局：ヒアリングに来られた方ではないが、3団体とどのような関りをされているか

は分からない。応募用紙を選考委員にご覧いただき、事務局を通じて質問をして、判断いただくことは可能である。

会 長：選考委員会に、ヒアリングするかを含めて、検討させていただくことを一任でよろしいか。それでは、市民公募委員の選考に関して、選考委員会で協議し、その後、各委員にもお知らせする。

ウ その他

特になし

4 その他

会 長：被害者からの考える会に宛てた手紙について、どのように回答するか、後日、委員と相談させていただく。

5 閉会 【次回会議】第4回花火大会のあり方を考える会は令和6年2月を予定。